

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 7月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 長東		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5 (電話) 082-230-3030		
自己評価作成日	平成29年5月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200213-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年6月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様とそのご家族様の思いを職員全体で真摯に受け止め、対応出来るよう努めている。看取りの希望も存在し、その都度対応し、ご家族様にも安心していただけるようお一人お一人を尊重する事に重点をおいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域の社会資源と風土に即した利用者支援が注目される。自分の畑で採れた野菜を「お裾分けです」と持参される近隣の農家、相互扶助の風習が今も残る人情厚い住民に囲まれ、その支援を可能にしている。今回、近くの大学の学生たちと協働の「音楽療法」の取組みが、海外メディアから注目を浴び、テレビ取材の予定など…、地域連携の実践例として特筆される。

定期的開催の運営推進会議も特徴的で、行政機関、社会福祉協議会、自治会長、学区民生委員児童委員会、連携医療機関、介護用品、乳酸菌飲料配達業者等に、運営母体の社長も加わり、事業所の現状評価と同時に、地域の介護予防、認知症対策等の時宜に即した各種講座の開催が、地域住民への情報発信として好評を博している。次いで、職員構成の中で看護師（5名）の比率が高く、医療連携および重度化、終末期への対応等に、他所にはない優位性を顕示している。

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、職員全体で作った「理念」を申送り時に唱和し、日々「理念」に沿ったケアが提供できるように努め、利用者様の少しの変化も報告し合い、職員全員で把握できるように取り組んでいる。	「ほのぼの苑」の名称は、創業者の発案で、それに見合う理念を、職員のブレインストーミング手法で左記の内容に集約された。その理念を日々の変化に応じて磨き直し、職員の働きの中に体現できるよう、日々研鑽を積んでいる。	※参考：事業所「理念」 「私たちは、真心と笑顔を持ち、安らげる環境の中でお一人お一人を尊重し、楽しみ、喜びのある生活を送っていただけるよう支援します」
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事（運動会・町内清掃）などに積極的に参加している。近隣の方より畑で採れた野菜や果物を頂いたり、集会所で行われる「いきいきサロン」に参加している。	この地域は、村社会の相互扶助のよき風習が残り、住民同士が交流する行事も盛んで、事業所もその中に溶け込み、運動会・町内清掃等に積極的に参加している。近く、町内の小学生50数名が来苑(来所)して、コーラスを披露する予定が組まれている。	※参考 =広島市への合併前は、安佐郡長束村、その後、安佐郡祇園町長束へと変遷。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に出席して頂いている民生委員さんや町内会の方などに向けて、認知症への理解を深めていただく為の研修をご案内しご参加頂いたり、年に3回のペースで「施設見学会・相談会」を実施し、気軽にお越しいただけるようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の際には、必ず出席者の方全員に一言ずつ頂く事でサービスの質の向上や新たな支援方法を発掘できる為、大いに役立っている。	多方面からの出席者の招集が当事業所の特徴であり、討議評価結果を日々のケアサービスに活かしている。同時開催の「免疫力・食中毒防止・歯周病と認知症」など各種講座が、外部の出席者には「心のお土産」として喜ばれている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	利用者様との関係が良好な為、特に相談する事はないが、2ヶ月に1回の運営推進会議に地域包括支援センターの方に出席いただき、ケアの報告をし、時にアドバイスをいただいている。年に1回、広島市や地域包括支援センターの方に指導していただいている。	上記項目〔4-3〕にも関連して、運営推進会議への地域包括支援センター担当者の出席もあり、情報交換も円滑に展開され、事業所のケアサービスの向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設以来、身体拘束をしないケアを実践し、また、エアコンがいない時季は、玄関や窓は無施錠としている。職員が常に利用者様の状況を把握するよう努めている。	人格尊厳の職員教育が徹底しており「なぜ、身体拘束をしてはいけないか」の理由と関係法令を熟知している。開放的運営で、玄関の無施錠も地域住民の防犯意識の高さと「利用者を地域のみinnで見守る」という地域の風土に支えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月定期的に関くスタッフ会議では「虐待チェックリスト」を記入し、自分自身のケアについて見つめ直している。また、毎朝の申送り時には職員による「きつい」「不信感」に思いう言動・行動がないか確認し、小さなことにも注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月行うスタッフ会議にて職員全員に対して計画的に研修計画を組み、活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時においては施設長、看護師、ケアマネージャーがゆっくりと充分な時間をとりながら説明し、理解・納得して頂くように努めている。		
も存在	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的にご家族様の面会が多く、その都度ご要望を伺える環境である。2ヶ月に一度の運営推進会議では、地域代表の方や外部の方により評価をいただき、職員の励みになっている。参考になる意見もいただき役立っている。	家族ケアが充実しており、面会の来訪者も多く、意見・要望を聞き、現場に反映させる雰囲気を保っている。「職員に名札を付けてほしい」「地域防災へ取組み」等の意見を受け入れ、改善に結びている。	

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月定期的に関くスタッフ会議には必ず代表取締役の出席があり、管理者とともに職員の意見や提案・質問をきちんと聞き、運営に反映させるべく努めている。</p>	<p>定期的に関催のスタッフ会議（職員会議）に、本部から代表者が必ず出席し、本社と現場の一体感のある討議を重ねている。中でも、統括施設長・管理者の熟達の職員応対が光り、職員の意向・想いを自らの笑顔に、明るい挨拶に、働きの中に体現させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎月1回のスタッフ会議への出席時や通常業務中の巡回などで職員の状況を把握し、給料や賞与に反映させ、各種研修会にも本人の意思に沿うよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>代表者や管理者は職員に必要な研修を受講できるよう配慮し、それを全職員に周知できるよう毎月のスタッフ会議の中で伝達研修を行いスキルアップできるように図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループホーム事業者交流会員となり、勉強会や研修会に参加できる機会を設けている。他施設との情報交換を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前、又は入所時、本人様に面談し、ご本人様の思いを確認し、特に不安や要望等があった際には納得して頂くまで傾聴し、安心して生活して頂けるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前よりご本人様、ご家族様と出来るだけ面談・電話等にて話を伺う機会を設け、不安等があれば解消できるよう傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様の「ADL」と「思い」を正確に把握する事に努め、必要と思われるサービスを提供し、ほかのサービスが必要と考えられる時は、その都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で職員と共に食事の下ごしらえや洗濯干し、裁縫などは教えていただく事も多くあり、職員にとっても有意義な場となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時はもちろん、お電話にて日々のご様子を小まめに報告し、家族様との絆が切れ目なく続くように支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族との関係が継続できるよう、ご家族のご協力を得て、誕生日やお正月などに帰宅されている。	入居契約時に、利用者宅を度々訪問し、家族関係、近所付き合い、社会環境を観察し、関係継続の支援を充実させている。息子さんが近所の友人を誘って来苑、本人も帰宅して交流の関係継続を保っている。入居後の近隣住民、商店等との新しい交流が生まれる事例も多い。	

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	自然に気の合う方同士で相談し合ったり、励まし合われたりと利用者様同士で支え合いながら生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了後も必要に応じて相談・援助を行い、少しでもお力になれるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の思いをその都度傾聴し、また、難しい方は表情から汲み取りながら意向の把握に努めている。	職員面談で「私の動きと心情が、利用者の表情、動きの中に、鏡のように映し出される…」との体験も聞かれた。日々の生活のふれあいの中で、利用者の意向(心の声)の把握に真摯に向き合い、全職員の「気づき」を集約・記録して、個別の意向把握、対応に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用いたり、入所以前にどのような暮らしをされていたかご本人様、ご家族にお聞きし、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様一人一人の生活スタイル・残存能力・心身の状態が日々変化する為、都度記録を取り、全職員が把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご家族様・看護師・介護職員・ケアマネージャー、時にかかりつけ医などと情報交換を密にし、ご本人様の現状に即したケアプランを作成している。</p>	<p>ケアプラン導入シートは、利用者本位を主語とする(※)「センター方式」を採用し、本人・家族の意向と多職種職員の意見を詳細に介護計画に織り込み、利用者の活動の輝き、意欲を引き出す介護サービスに結びつけている。</p>	<p>※参考：センター方式の特徴 利用者本位ということを追求めし、本人の言葉、行動とその時の様子、感情など、24時間の中で総合的に把握するもの。文字ばかりでなく、平素の姿、表情などを描くスペースを備えている。(認知症介護研究・研修東京センターの著作による)</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>看護師・介護職員・ケアマネージャーは利用者様の状態をそれぞれの視点から記録に記入している。また、毎日の申送り時に出勤している全職員が一言ずつ「気づき」を述べ、記録に残し、情報を共有するようにしている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常にご本人様の思いに耳を傾け、インフォーマルなサービスを活用し、出来るだけ希望に沿えるように努力している。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>「いきいきサロン」や「自治会運動会」などの地域行事に参加したり、日々の生活にメリハリをつけ、楽しみのある日常生活を送っていただけるよう、折り紙教室等のボランティアの方々にご協力いただき、定期的に開催している。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診は月2回、必要時や緊急時は常にかかりつけ医と連絡が取れる体制ができています。また、口腔内の状態を観察してもらう為に定期的に歯科往診も取り入れており、状態が悪い時は、その都度報告し、受診していただいている。</p>	<p>当事業所は、看護職員の在籍比率が高く、かかりつけ医の定期的往診、歯科往診等に迅速に対応できる体制を充実させている。最近では「お口の健康保持は、全身の健康につながる…」として口腔ケアに傾注している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎朝の申し送りや日常業務の中で、少しの変化も見逃さず、連絡を取り合う体制ができており、協力医への報告も密に行われ、救急時の対応もスムーズに行われている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医により入院する病院との連携がとられ、苑からも情報提供を行い、安心して治療が行える体制づくりを整えている。入院中も病院を訪問したり、電話にて連絡を行い、情報交換・相談を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時に、「重度化」について説明を行い、その必要時にはご家族や医師・職員と話し合いの場を持ち、施設としての対応を理解し、納得して頂いた上で支援させていただいている。</p>	<p>「重度化や終末期までこの事業所に任されることは、事業所にとっては名誉なことである」と、統括施設長が強調し、大切な生命を預かる重要な支援として尊厳を持って臨んでいる。それに見合う医療・看護・介護職員の意思統一が図られている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変・事故発生時に対応できるように定期的に学んでいる。スタッフ会議において看護師より処置方法、用具の使用方法等具体的に指導があり、いつでも実施できるよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練を月1回必ず行い、夜間での訓練も夜勤者全員が行う様になっている。消防署の助言を受け、3日分の食料の備蓄、炊き出し用のプロパンガス、簡易トイレなどを準備している。また、災害発生時には一時避難場所として地域の方に呼びかけている。</p>	<p>「26年8月20日・土砂災害」の際に、近隣住民の心強い救援体制が役立った。自宅の2階を避難所として受け入れ可能と救援の声も寄せられた。これを契機に、今後の災害時には、事業所から食料備蓄を活用して炊き出し等の相互支援の協力体制が強化された。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	月1回のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を記入し、自身の1ヶ月の業務を振り返り、日々の業務を見つめなおす場を設けている。また、毎朝の申し送り時に職員の言動・行動について不審なところがあったかの問いかけを行っている。	いくら親しくなっても節度のある対応するよう指導され、事業所で発行する「ほのぼの通信」の記事掲載にも個人情報提供同意書を交わし、プライバシー確保に取組み、人格尊重の職員教育を徹底させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる時、思いを語っていただける事が多い為、散歩や入浴時等を利用して思いをお聞きし、出来るだけその思いを具体化できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的にご本人様の生活リズムに合わせており、起床・食事・入浴時間を個別で対応している。外出希望があれば、ドライブ等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容に来苑していただいたり、ご希望があれば近所の美容室で毛染めやパーマなど自宅ですていたようなおしゃれも楽しんでいただけるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来るだけ旬の物を取り入れ、四季を感じていただけるようにしている。気の合う方と隣の席になるよう配慮し、食事を楽しんでいただいている。	三食とも、食事担当の専任職員の配属が特徴で、食器も有名陶器店から購入、美味しく、楽しく食べることを大切にしている。食材も地元の新鮮なもの、旬のもの、産地の分かるものを使用し、利用者も下ごしらえ、片づけなど一緒に働いている。	

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>どの季節でも「脱水」には特に気をつけており、1日の必要摂取量は1000cc前後と設定している。美味しく食事を摂っていただけるように、特に残食の目立つ利用者様には好みの味付けに変更したり、代替品を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔内ケアには必ず仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。また、利用者様には定期的に訪問歯科の往診を依頼し、口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の失敗やおむつの使用量を減らす為に、排泄のパターンを掴み、パット委員と職員で適切なおむつの使用に努め、ご家族様にもご理解頂き、布パンツを準備して頂いております。病状が重症化された方には尿測を行い、必要なおむつの変更を行っている。</p>	<p>「パット委員」の存在意義は大きく、排泄パターンを掴み、本来の布パンツの生活、トイレでの排泄への自立に向け、家族と共に知恵を絞っている。利用者の快適性、家族のおむつ代の費用負担軽減への取組みも評価される。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1日の食事の中に乳酸菌や繊維質の食品を取り入れたり、日々の体操で腸内運動を活性化するよう取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>お好きな時間に入浴できる時間配分はできていないが、親しみのある職員と入浴を楽しむ工夫はしている。入浴を拒否される方には馴染みの職員が時間をずらし、世間話から入浴へ勧める工夫をしているが、記録に残っていない事もある為、今後は記録に残すようにする。</p>	<p>介護側の都合でなく、利用者の希望に応える入浴支援に取り組んでいる。入浴拒否の人には、相性のよい職員が対応するなど工夫をしている。この入浴の対応にも、生活歴（五右衛門風呂、銭湯の思い出等）を考慮した支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>小まめに声掛けし、ご本人様 の楽な姿勢で休息が出来るよう 努めている。足浴や手浴を行い、 ゆっくり休んでいただけるよう 支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬局と連携を取り、薬の飲み合 わせや副作用について看護師か ら説明を受け、確実に服薬支援 が出来ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>個々の好みや楽しみを取り入れ 、個別に対応している。毎日の 食事や散歩・ドライブなど取り 入れ、気分転換を図っていただ けるよう支援に努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ つて、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。</p>	<p>近所への散歩で季節を感じてい ただけるよう、希望に応じて外 出できるように支援している。時 にはドライブしたり買物に出かけ たりしている。</p>	<p>職員と近隣住民との明るい挨拶 が交わされ、利用者の散歩、外 出にも地域住民の温かく見守る 協力体制がある。時には、利用 者の希望に沿って三滝公園、竜 王公園など体調に応じてドライ ブに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>現在、入所されている方で金銭 管理が出来る方はいらっしや ない為、事務所で保管し、必要 時に使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>自分から手紙を出されたり電話をかけられる事はないが、届いた手紙はご本人に手渡している。電話がかかって来た時はご本人につなぎ、心行くまでお話ししていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関には、いつも季節の花を飾り、各ユニットでは季節に合わせた壁画を作成し、季節を感じて頂けるようにしている。小まめに換気を行い、新鮮な空気を取り入れるように努めている。</p>	<p>訪問の6月は、玄関に紫陽花の生花が輝いた。利用者の活動、職員の動線を配慮した設営である。平屋建ての利点を生かした自然採光、人を迎え入れる明るい玄関、開放感のある食堂兼リビング、広い廊下等で、居心地のよさが体感された。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者様の思いを尊重し、日々対応している。気の合う利用者様同士は隣席したり、居心地のよい空間づくりに努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居以前に自宅で使用されていた愛着のあるものを極力持参して頂くようにし、居室が居心地のよい落ち着くことの出来る空間になるように配慮している。</p>	<p>自宅の生活の延長として、利用者・家族の想いを織り込んだ居室の整備である。家族の温もりの伝わる家具、調度品が持ち込まれ、特に共用空間との明確な区分、独立性・居心地・快適性に留意工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は車椅子や独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保している。</p>		

V アウトカム項目(東) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
も存在し	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑長束

作成日 平成29年7月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常的な外出支援が出来ていない。	前回達成できていない為、再度外出支援を行っていく。	週に1回は外出の時間を取り、目標達成の為、努力する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

利用者様とそのご家族様の思いを職員全体で真摯に受け止め、対応出来るよう努めている。看取

りの希望も存在し、その都度対応し、ご家族様にも安心していただけるよう一人一人を尊

重する事に重点をおいている。